



工藤正廣
(明政一心会)

急務である病院の経営改革 令和4年度の収支見込みは

黒字見込みだが
収支的にほぼ均衡状態

問 中央病院の経営改革は急務であり全力で取り組んでほしい。令和4年度の収支見込みは。

答 純損益で約5,000万円の黒字の見込みですが、当院の経営規模を勘案すると収支的にほぼ均衡状態であるため、年度末まで引き続き厳しい目で注視していく必要があると考えています。

問 医師や看護師不足の中、病床利用率を上げることは難しい。病床数を削減できない理由は。

答 上十三地域の中核的な急性期病院としての役割、医療需要の動向や県の地域医療構想による病院間の役割分担等の状況を踏まえ、必要な病床数の適正確保に反映されると考えています。急性期機能へのさらなるシフトを見据え、削減による経営改善の趣旨を踏まえながら地域において必要な適正確保を図っていきます。

問 経営コンサルタントを導入しては。

答 今後の病院経営には収益面での経営改善だけではなく、費用の見直しのほか、人材育成や組織活性化、経営環境や人事労務管理など多岐にわたる病院全体での経営分析、改善が重要であるため、活用について検討していきます。

問 大雨などの災害で被害のあった私道について、市で改修できるように条例を制定しては。

答 条例の制定は現段階では考えていませんが、県内で補助をしている事例もあるため、今後制度について調査研究します。

問 私道の道路補修を行う考えは。

答 町内会などが道路地権者や沿線土地所有者等へ整地作業の合意を確認し、市民サービスの一環として市が実施することもあります。反対意見が寄せられることもあるため、今後も関係者の合意を基本とし、実施を判断していきます。



久慈年和
(立憲農民クラブ)

男女平等の第一歩として 男女混合名簿を導入する考えは

各校が実態を検討し
主体的に判断する

問 男女混合名簿は、性別によらない名簿で、現在使用している男女別名簿は、小学校では男子が生年月日で名簿順を決め、女子が後という名簿になっている。性別によって優先順位が決まる現在の男女別名簿は、男女平等を教えるためにもふさわしくない。県内10市の男女混合名簿の導入の現状は。

答 小学校では青森市が100%、八戸市が48%、当市は20%、他7市は20%未満で、そのうち2市は未導入、中学校では青森市が100%、つがる市が20%、当市が13%で、他7市は未導入と伺っています。

問 当市の混合名簿の導入における課題は。

答 運用面での不便さが挙げられます。男女別で行う健康診断や体育などでは男女別の名簿が有効なため、混合名簿導入の学校においても、併せて男女別名簿を作成し、場面に依じて使い分けています。

問 名簿を男女混合にするのが、男女平等の第一歩を踏み出すことと考えるが、導入の見解は。

答 各校の実態を検討し、主体的な判断と考えているが、混合名簿の教育的な意義は、校長会等を通して伝えていきたいと考えています。

問 マイナンバーカードのポイント事業には、2兆円を超す予算が注がれ、カードとの一体化による健康保険証の廃止は任意だったカードの取得の実質義務化である。今後、運転免許証など、様々な項目を追加する予定で、暗証番号など個人情報を守られるのか本当に心配だ。当市の令和5年2月末のカード申請率と交付率は。

答 申請件数率は74.6%、交付枚数率は65.6%で、国全体では申請件数率72.6%、交付枚数率は63.5%で、いずれも市が上回る状況です。